



TITLE:

養蠶業の擴張及改善

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 養蠶業の擴張及改善. 經濟論叢 1923, 16(2): 330-349

ISSUE DATE:

1923-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127993>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第十六卷 第二號

大正二十二年二月一日發行

論叢

資本主義經濟學と自然法則 . . . 法學博士 河上 肇

納稅義務者としての國家 . . . 法學博士 神戸 正雄

階級に就いて . . . 文學博士 高田 保馬

時論

養蠶業の擴張及び改善 . . . 法學博士 戸田 海市

農業不動産金融と一般不動産金融 . . . 法學博士 河田 嗣郎

說苑

個人主義及社會主義局外觀 . . . 法學博士 財部 靜治

舊岡山藩の社倉法に就て . . . 經濟學士 黒 正 巖

雜錄

地租の改廢に就て . . . 法學博士 小川郷太郎

白耳義けるに於る失業保險制度に就て . . . 法學士 一戸 二郎

時 論

養蠶業の擴張及改善

本論も亦病床中執筆せしものにして、經濟演習參考資料として學生に與ふる爲めのものなれど、其儘發表することとせり。

戸 田 海 市

一、養蠶業の大々の發展の必要

一、養蠶は目下不振に陥れる輸出の最大支柱なり。

天然資源の缺乏せる我國は、世界市場に重要な地位を占むる商品にして、其生産の我國の現状に最も適當せるものを撰みて大に之を發達せしめ、之が輸出に由りて諸外國より物資を獲得するの必要なるは勿論なるが、此の如き産業として現在最も重きを爲すものは養蠶に外ならず。

(1) 戰爭中諸種の工業就中金屬工業及化學工業が新たに勃興したるも、本來我國には石炭、鐵、鹽の如く運賃を要すること大なるが爲め、國內に豊富に存在することを要する重要原料が甚だ貧弱高價なるが故に、此種の事業の大發展は困難なるべし。

(2) 綿業は我國最大の新式工業なれども、戦争以來我綿製品の主要輸出先たる支那に於て、需用の最大なる低級の綿製業が大に發展したるが爲め、我國は今後高級品の生産に努力するを必要とするに至りしも、此方面に於ては英米獨等の先進國の競争激烈なるが故に、其發展も亦多難ならざるを得ず。

(3) 以上の如く我經濟の商工的發展の行き詰りの爲め、平和克復後輸出に於て生絲が重要な地位を恢復し、絹製品の輸出も大なる増加を示すに至れり、十一月末の貿易統計に由れば總輸出高十四億八千萬圓弱の中、生糸諸織物等の諸製品が七億二千萬圓弱に達し、殆んど全體の二分の一に近き驚くべき割合を占めつゝあるが、十二月中の貿易も大體同様の形勢を示すべし。實に今日の不振なる輸出は殆んど生糸の一品に由り辛ふじて支へらるゝ有様なるが、此形勢は近き將來に於て變化することなかるべきは、下に述ぶる所に由りて明かなるべし。

二、今後も養蠶は益々重要視せざるを得ず。

(1) 戦前まで文明國に於ける絹の需用は可なりの流行的消長ありて、其生産業は頗ぶる不安なりしも、戦争以來イ民衆の所得増加に由りて絹の需用が民衆化せられ、従つて絹業は最早や少數有産者階級の氣紛れなる流行に由りて其運命を支配せられず、其需用は大なる安定性をも有するに至れり、(ロ)戦争勃發後綿毛麻等の製品は速かに騰貴せしに反し、生絲は久しく低價を

維持したるが爲め大に其消費の民衆化を助けたるが、一旦絹の消費に慣れたる者は之を抛つこと難し、(ハ)歐洲戦争は各國の男子勞働者の重要部分を兵役に服せしめ、一般の生産は婦女をして之に當らしめたるが爲め、婦女の収入の増加と其社會的地位の獨立とに新紀元を劃したるが、此事たるや同後に絹の消費の民衆化に大なる影響を及ぼしたり、(ニ)今日絹の最大消費國は米國なるが、米國に於ける絹の消費の民衆化は上述の一般的原因の外に、禁酒制度を實行したることが重大關係を有するが如し、即ち酒の消費の爲め米國民衆が直接間接に支出したる幾十億弗の購買力の少なからざる部分が絹の消費に轉向して、之が需用は下層階級にまで普及し、今日は最早や其需用が充分の安定性を有するに至りしが如し。

之を要するに戦争以來絹の需用が文明國に於て民衆化せられしが爲め、他の纖維品に比し急速なる増進を爲し、且つ其需用が安定的となりたるが故に、今後も年と共に其需用の確實に増進することを豫期するを得べし、蓋し絹は他の纖維品の企及し得ざる優秀の特質を有し、従て生活程度の高き國民の間に於て其の需用の益々増加するは自然の勢なるが、從來は其需用が比較的少數階級の間に限られたるが爲めに、此種階級者の間に行はれ易き不自然なる流行に由り絹の需用高に消長を生じたるも、民衆の嗜好は極端に走り不自然に陥ること少なきが故に、絹の需用の民衆化は之を安定的ならしむること明かなり。而して絹の消費の民衆化

の爲め其需用高は驚くべき増進を示し、諸般の商品の需用減退と其生産制限とを通則とする今日に在ても、獨り絹の需用を充たすには到底天然絹絲を以て足れりとせず、殆んど之と同量の人造絹絲の生産を急速に發展せしめて僅かに世界の需用に應じつゝある有様なり、實に絹を民衆化して之を綿花、羊毛及麻と同様に世界の重要必要品たらしめたることは、歐洲戰爭が齎したる經濟上の重大變化の一に算へざるべからず。而して此大變化が齎らす所の利益の主なる部分は我國が享受すること難からず、世人は歐洲戰爭が我産業に與へたる利益と云へば、直ちに海運業金屬工業又は化學工業の勃興を擧ぐることを常とすと雖も、實際には意外にも時代に取り殘されたりと云はるゝ農村の養蠶が今後國民經濟の大支柱たるの可能性を有するに至たり。

目下生絲需用の中心は米國にして、歐洲は戰後の疲弊尙は甚しきが爲め其需用少なしと雖も絹の消費の民衆化は歐洲に於ても行はれて、人造絹絲及絹紬の如き代用品の需用は相當に存するが如し、故に歐洲の經濟界の恢復するに従つて生絲の需用の増加を期待し得べし、現に昨年來英佛伊等の經濟界が略々整理安定の状態に入りてより、我國の對歐輸出の恢復の勢も先づ生絲の上に現はれつゝあり。

(2) 世界市場に對して生絲供給の過半を占むる我國が、大々的に養蠶を擴張するときは幾分か其

價格の下落を生ずべしと雖も、絹の消費は生理上の必需品の如き場合と異りて多大の弾力性を有し、不完全なる人造絹絲の大生産に由り民衆の渴望を醫しつゝある有様なるが故に、生絲の價格を一割引下ぐれば其需用が二割三割の増加を爲すと云ふが如く、供給増加の割合に價格下落の不利少なし、而して養蠶に必要な桑園は穀物生産の場合の如く廣大の面積を要するものにあらず、其生産要素として最も重きを爲すものは勞働及資本なるが故に、其技術及經營に改良を行ふの餘地多く、従つて養蠶の大擴張を行ふも收穫漸減法則に支配せらるゝこと少なく、寧ろ生産費漸減の法則が多く働くに至るべし。

(3) 絹の最大消費國たる米國の物價は戰前に比して四割高なるに反し、世界の生糸相場を左右するの力ある我國の生糸は二千百圓以上となり、戰前の八九百圓に比すれば十四五割の高位を保てり、故に我生絲の生産を大々的に増加して其價格を相當に低落せしむるときは、其消費が大なる増加を爲すの見込充分なると同時に、今日の如く我生糸が特別の高價を維持するとき(イ)生糸の供給に付て最大の競争國たる支那の生産が久しからずして大なる發展を爲すに至るべし、(ロ)近來人造絹糸の技術の進歩と其産額の増加とは頗る急速に行はれつゝあるが、是亦世界の生糸相場の決定するの力ある我生糸の餘りに高價なることに由りて刺戟せられたるものなり、故に我國の生糸が今日の如き高價を維持するときは久しからずして如上の競争者

の爲めに甚しき不利に陥らざるを得ず、是れ生糸の價格を相當に引下ぐることを緊要とする所以なるが、其需用の増大して供給の不足せる今日に於て之が相當に引下ぐる爲めには我生糸の生産を大々的に増加するを必要とす、元來我國民は目前の利益を追ふに急にして遠大の思慮を欠き、我生産に對する需用が増加すれば忽ち増長して後日に對する警戒の念を失ふことを通弊とし、戰時中の新興事業の今日の壞倒も主として之れ原因するものなるが、今後國民經濟の大支柱たるべき生糸に付て吾人は極度の警戒を加へ、薄利多賣の方針を取りて益其消費の民衆化を確立すると同時に、外國の競争生産及代用品の競争生産の防遏に努力せざるべからず。

(4) 製絲業と共に絹及絹綿交織其他の絹製品業は我工業中最も重要な地位を占むるものなるが、今日の如く不景氣に由りて製品の下落せるに反し、其原料たる生糸が外國需用の増進の爲めに高價を維持する間は、我絹業は收支相償ふこと難く、之が爲め京都福井石川其他の絹業地方は半休業狀態に陥りて、多數の失業者を生じつゝあるも、生糸の生産増加に由り其價格が相當に下落するときは、各地の絹業が恢復するを得べく、特に生糸の下落に由りて我國特有の羽二重を初めとして各種の絹製品を一層低廉に生産するときは、絹の世界的需用の増進せる今日に於て大に我絹製品の輸出を増加し、以て一方に於ける綿業の不振を償ふこと必しも

難きにあらす。

二、養蠶業の大々の發展の可能

（一）目下の狀況

（1）我國の物價平準は戰前に比して約二倍なるに反し、生糸は二倍四五割の高位を保てり、從來米價も四十圓臺に上りて戰前の相當價格と認められたる十五六圓に對し二倍四五割の高位を保ち、恰も養蠶と同様に有利なりしも、本年度の古米殘存高七百萬石以上の巨額となれる上に、收穫高も大正九年に次ぐの豐作となり、一面に經濟界の不景氣は米の消費を制限すべきが故に、今後相當に永く米價下落して一般物價と權衡を保ち又は其以下に落つるに至るべく、（假りに政府が米穀法に由りて相當の數量を買上ぐることをするも）従つて農民の事業として當分養蠶が非常に有利となるべく、養蠶の大擴張に由り生絲價格が相當に下落するも尙は農民は養蠶に由り不利を蒙むることなかるべし。

（2）養蠶は勞働を要する割合の大なるものなるが、戰爭以來田舎の勞働の缺乏と其勞銀の騰貴とは頗ぶる大なりしが故に、養蠶の擴張を行ふて生絲價格が相當に下落するときは、勞働を多く要する養蠶は不利に陷るが如しと雖も、戰爭以來の田舎の勞働の缺乏は都會に於ける工業

の大發展に由り其勞働を奪はれたるが爲めなるに、不景氣と軍備縮小及財政緊縮の爲めに失業せし勞働者の過半は再び農村に歸りて生活するの已むを得ざるに至り、又農氏の副業として重要な地位を占むる織物業の不振の爲め農家女子の失業も多數に上れり、故に今後は養蠶擴張に必要とする勞働の供給に不足を告ぐるることなかるべし、否な米價下落と失業との爲めに過剩となる田舎の勞働は今後養蠶に従事するの外に有利なる生活を見出たすこと困難なるべし。

(二) 將來の形勢

養蠶の大發展の爲めには桑園の擴張改良其他の設備の爲め相當の資本固定を必要とし、従つて將來若し養蠶が不利となりたる爲めに之を縮小して普通農業其他の事業に轉ずる場合には相當の不利を蒙むらざるを得ず、故に養蠶の大發展を爲すがためには單に其の目前に有利なるを以て足れりとせず、今後も永く有利に之を繼續し得るの見込なかるべからず、養蠶の前途を卜するには其需用と供給との兩方面を考へざるべからず、需用の方面が前途益々有望なることは前に述べし如くなるが、更に其供給者たる我が農民が將來も有利に之を繼續し得ると同時に、我國の産業上社會上養蠶の發展を圖るの有利なることは、下記の諸事情より斷定するを得べし。

(1) 我國の人口就中農村の人口増加は頗ぶる大なるが、將來此増加人口が如何なる方面に吸収せ

らるべきやと云ふに、我工業は過去に於て急速の發展を爲し、以て年々の増加人口を容易に吸収して其生活程度を高め得たるも、既に述べし如く今後の工業發達は頗ぶる困難の事情あるが故に、其人口吸収力は過去に於けるが如く大なるを得ざるべく、又海外移住に由り我人口問題を解決するを得ざるは多言を要せず、而も一方に我國が今後成るべく外國より低廉なる食物原料の供給を受けるの方針を探ることを必要とする以上は、農民が多々益々普通農業を集約に經營して其増加人口を養ふことは困難となるべし、此事たるや我農業に於ても今後小機械及家畜の使用を普及し、且つ耕地の改良肥料の増加等の資本投加を進めて、成るべく人力を省かんとするの傾向あるに於て特に然らざるを得ず、果して然らば今後の農民は有利なる副業を求むるの必要大なること明かなるが、米作に次で重要な地位を占むる養蠶が此必要を充たすの力最も大なるべし。

(2) 我國に於て今後有利に開墾し得べき耕地は、主として傾斜の大なる畑地なるが故に桑園を有利に擴張するの餘地は充分に存す、勿論開墾可能地の中には水田と爲し得るものなきにあらざる雖も、耕地の造成と灌漑の設備とに巨大の費用を必要とするが故に、外國食物の輸入を自由にするの方針を探るときは水田の開拓は收支相償ふこと概ね困難なるべし。

(3) 従來我農業は餘りに米作の一方に偏し、之が爲め其收穫の豊凶と米價の變動との爲めに、農

業全體が甚しく不安の事業となりしが故に、今後は米作以外の生産を兼營して自然的に危險平均の作用を生ぜしむるの必要なるは勿論、米價下落が繼續する場合には特に副業に多くの力を注ぎて米作の不利を補填するが如く、人爲的平均作用を行ふの餘地を存せしむるを必要とす、而して農民に適當する米作以外の事業の中最も有望なるは養蠶なるべし。

- (4) 養蠶には土地を要すること少なく、特に地價地代の低廉なる畑地にて足るが故に、土地を所有せざる小作人階級が、食物生産を自家用に止めて養蠶に多くの力を注ぐときは、米作を主とする今日の如く其收穫の過半を地主の爲めに取り去らるゝの弊を免れ、一層自主的地位に立つことを得べし、大都會附近の小作農民が蔬菜栽培に従事して一反歩數百圓の收穫を擧ぐるが如き場合に於て、小作料は其收穫の小部分を爲すに過ぎず、従つて土地の所有が自他公私の何れに在りやは左まで重大の問題とならざるが如く、一年數回の收穫を爲す集約の養蠶を營む場合に於ても同様の結果となるべし、又多數農民が養蠶に従事するときは、桑苗、肥料、農具、蠶種、蠶具、藥品等の共同購入、場合に由りては桑葉の共同購入保存、繭の共同販賣、乾燥室、冷藏室の共同建設、或は理想的なる養蠶室の共同管理の如く産業組合的活動も、普通農業の場合に比して遙かに能く發達し、以て下層農民の地位を向上するを得べし。
- (5) 我國民の日本米に對する執着力は甚だ強烈なるが故に、今後國民食糧を成るべく低廉に植民

地及諸外國より輸入するの方針を探るも、尙ほ米價は次第に騰貴するの勢を有すべく、從つて此點より見れば農民は養蠶よりも米作に傾くを免れざるが如しと雖ども、既に述べし如く今後の養蠶には大に學理を應用し又産業組合的活動を盛んにし、以て其生産費を減少するの可能が、收穫漸減法則に支配せられ易き普通農業の場合よりも大なるが故に、今後の養蠶の發展は米作の競争に由りて壓迫せらるゝの危険少なきが如し、特に注意すべきは我國の製糸業が進歩せる現代的工業の尺度を以て計れば未だ原始狀態に停滯せるものにして、今や其技術と經營とに大革新が起らんとしつゝあり、製糸業が進歩して著しく生産費を減少するとき、製糸業者は今日よりも著しく高價を以て繭を農民より買入るゝを得るに至るべし、此點より見れば今後生糸の價格に變動なしとするも繭の價は騰貴するの勢あること、恰も米價が騰貴の勢を有するが如くなるべく、更に今後世界一般の絹織物業其他の絹製品業が進歩して其生産費を減少するときは、同様に繭價を騰貴せしめて進歩の利益を農民に分つに至るべし、而して米作と養蠶との物質的利益が大差なきときは、進歩せる農村の分子は粗放にして力役的なる穀作農業よりも、學理の應用と資本の運轉と組合に由る共同自治的活動との盛んに行はるゝ養蠶を撰むべし。

(6) 世界的需用の上より見るも、將た我農民の生産業として米作との權衡より見るも、養蠶の前

途は不安を感ずるを要せずとも、本來養蠶は農民の副業として營まるゝものなるが故に、東洋諸國民就中支那人に比して生活程度の高き我國の養蠶は久しからずして其競争に苦しむに至るべし、支那は養蠶に必要な廣大の土地と低廉の勞働とを無限に有し、加ふるに氣候も亦我國に比して寧ろ養蠶に有利なる地万多く、例へば廣東一省のみにて能く我國全體に比敵するが如き養蠶を發達せしむること難からず、故に我養蠶の前途は甚だ不安なりとの論は頗ぶる有力なるが如く、予も亦一時此意見に傾きたり、然れども生産業の粗放なるものと集約なるものとが能く並立繁榮し得る場合少なからず、例へば牧畜、就中畜産品業は南米、濠洲、西比利亞等の新開地に於けるが如く、廣大なる土地と僅少簡易の勞働とに依頼する粗放の經營に係はるものと同時に、丁抹、和蘭、白耳義等の西歐に於けるが如く、極めて集約高級なる畜産業、就中乳製品業又は酪農の繁榮する事實あり、更に蔬菜果實の生産に付ても粗放集約の両者が並立するの例少なからず、西歐の酪農其他の集約農業に於ては、技術上に學理の應用が大に進歩し、經營上には産業組合的活動が大に發達せるものにして之に従事する農民の教育は世界の國民教育に於て最高の發達を爲せるものなり、支那其他の後進國に於て今後養蠶發達の見込大なりと云ふも、其養蠶たるや無智無資力なる農民が舊慣に従ふて行ふ所の粗放低級のものなるに反し、我國に現に發達しつつありて、又今後大に發達せしむ

ることの可能なる養蠶は、恰も西歐の集約農業の如く高級のものなり、故に我國が後進國の競争を恐れて養蠶の發展に躊躇するは當を得ず。

(7) 我國の經濟上の方針に付き、從來世人は東洋の英國たることを理想とするの説に傾きたり、假りに我國が英國の如く商工立國の方針を探りて能く進歩し、年々の増加人口を商工に吸収して高度の生活を營ましむるの見込ありとするも、尙ほ英國の如く一國の産業を商工に偏せしめて農業を閑却するの方針が正當なりやに付ては多くの異論あるべし、只だ實際問題として我國は大に英國と事情を異にし、到底英國の如く商工方面に偏するを得ず、即ち我國は現代工業の發展上國內に於て豊富低廉に存在することを要する石炭鑛物等の天然資源に甚しく缺乏し、又原料の獲得と製品の販売とに有利なるが如き世界的大植民地を有せず、加ふるに我國民の生活慣習が甚しく特殊なるが爲めに自給自足の必要の大なることは、我國の商工業の世界的發展に重大の障礙を加ふるものなるが、此の特殊なる生活慣習の革新の容易ならざるは、殆んど言語文字の革新の困難なるに類するものあり、故に我國が今後も多々益々商工業及海運業の發達に努力するの必要あるは勿論なれども、一面に集約なる高級農業の發達を圖らざれば年々増加する國民を養ふこと能はず、従つて我國の經濟は英國よりも寧ろ彼の進歩せる工業を有すると同時に、集約なる農業を有する白耳義の如き方向に進まざるを得

ざるべし、科學の應用と産業組合組織に由る自治的活動とを盛ならしむる高級の集約農業を發達せしむることは、筋肉的なる農業勞働を頭腦的に進ましめ、其事業の經營を商工化し、單調寂莫なる農村生活を複雑にして之を都會生活に接近せしめ即ち農村を都會化するの餘力を生ぜしめ、特に一國の最下層民として悲慘の境遇に陥り易き農業勞働の地位を著しく向上せしめ、從つて低級なる農村勞働者が都會に集まりて勞働市場に競争し、以て商工勞働者の向上に妨害を加ふるが如き弊も除かるべし、故に此種の集約農業を發達せしむることは最惡なる農村生活を伴ふ所の現代都會文明の缺點を矯正する上にも有利なり、一部の保守論者は浮華に流れんとする現代國民の間に質實健剛の氣風を保存するが爲め、成るべく農民の商工化し都會化することを防ぎ、農業經營をして成るべく自給的ならしめ、又其勞働をして成るべく筋肉的狀態に留まらしめんと主張するも、此の如きは覺醒しつつある農民自身の要求と相距ること甚だ遠し、而して自耳義は世界の生産消費の中心に位するが故に、其集約農業は主に園藝的方面に發達するを得たりと雖も、歐米と隔離せる我國は運搬保存の困難なる蔬菜果實等の栽培を大々的に増加するを得ず、今後此種の生産物は寧ろ支那より供給を仰ぐの必要大に増加すべし、之に反し養蠶は集約なる高級産業として發達せしめ得るものにして、又其生産物は運搬保存の上より見るも、世界的需用の上より見るも理想的商品なるが故に、我國の集

約農業の今後の發展は主として養蠶の方面に向はざるを得ざるべし。

我經濟の今後の方針に關して以上具體的に英白阿國との比較を擧げて論じたるが、更に此點を明かにする爲め少しく理論的の考察を加ふべし、我經濟が過去に於て商工方面に進歩したる速度は可なりに大にして、世人は往々我國を六大工業國の中に算ふるに至りしとは云へ、其實今日までの進歩の程度は相當の條件を具ふる國民、就中人口の稠密なる國民の必しも到達するを難しとせざる低級平凡のものにして、更に此水準を超越して大なる進歩を爲すことは、優秀なる内外條件を具ふる少數國民のみに許さるゝ所なるべし、工業的進歩の先頭に立つ英米獨等の諸國民の如く、科學的技術的の獨創力に富むこと大なる勢力集中を以て持續的に勞働するに足る強健の體質を有し、特に單調なる分業的勞働に付て倦怠疲勞を感ずるの少なきこと、大團集を組織して規律的に共働することに興味を有することの如きは主なる内の條件なり、此等の條件に付て我國民が現に先進國民に比し遜色あることは事實なるが、假りに今後此等の點に付ては大なる進歩を爲すの望ありとするも、現代工業の最も必要とする所にして、且つ遠距離を輸送するの不利なる石炭其他の重量原料の甚しく不足せることは、我經濟の商工的發展に對し重大の障礙たらざるを得ず、佛人に比して白耳義人が特に現代的工業の能力に富めりと云ふを得ざるに係はらず、其の工業國民として優越の地位を占むるは、

石炭、鐵の基礎原料の豊富なるに由る所大なるべく、又白國人に比して工業的能力に缺乏せりと云ひ難き伊太利に於て工業の不振なるは、天然資源の貧弱なるに由ること大なるべし、故に我國が更に商工的發展に努力するの必要あるは勿論なれども、此方面に於ける今後の進歩は到底過去に於けるが如く順調急速なるを得ざるべく、從つて一面農業方面の發展を開却するを得ず、固より今後比較的に多く發展を要する農業方面は本來粗放の性質を脱し難き穀作以外の農業にして、多數の勞働就中高級の勞働と相當の資本とを利用するの餘地大なる集約農業ならざるべからず、此種の農業は手工的性質を有するが故に國民が大なる手工的能力を有すること及自然に親しむの情強きことを主なる内的條件とするものにして、又此種農業を高級のものたらしむるが爲めには同時に國民が科學的知識の發達に付ても相當の能力を有することを要すべし、我國民が此等の條件を多量に有して集約農業に長することは、我農業全體の現狀に照すも、將た海外に於ける我農業移民の集約農業上の優秀の成績に徴するも疑問の餘地少なかるべく、少くとも此方面に於ける發展力は現代的商工方面に對する能力に劣る所なかるべし、更に其の主なる外的條件としては氣候と販路との二者を擧ぐることを得べく、我國の氣候は畜産以外の集約農業には概ね不利ならずと雖ども、販路の上よりして我國藝的農業は大體に自給的範圍を超ゆること難かるべく、世界市場を相手として多數の人口を養ひ

得る集約農業は近き將來に於ては養蠶の外に之を見出すこと難かるべし。

- (8) 農民は古來社會の最下層民として、恰も食物生産機械の如く又納稅動物の如くに取扱はれたるも、民衆化的進歩の大勢は農民の覺醒を促がし、之が爲め都會文化の間に生育したる現代思潮界の今後に於ける最大任務の一は新たに農村を發見し、農村文化を建設することに在りと稱せらる、歐洲の或國は其植民地と諸外國とより低廉に食物を獲得し得る地位に在るが故に、目前の經濟的利害より見れば、國內農業の衰退を顧慮するの必要なしと云ひ得べしとするも、我國は之れと事情を同ふせず、特に我國民が今日の如く日本米に執着すること甚しき間は、國民食糧の主なる部分を國內に生産せざるを得ず、然るに我國土の狹小なるに加へて有利に耕作し得べき面積は其二割に達せしむることすら困難なるが如き山嶽國なるが故に今後收穫漸減の自然法則に反抗して低廉豊富に食物を生産することは、現代の如何なる生産業よりも困難事なり、而して機械と分業とを應用して大規模に行ひ易き工業方面に在ては、少數者が機械分業に付て發明を行ひ又其實行を指導すれば、比較的低級簡易の勞働に由りて能く生産の増進を爲すことを得べしと雖ども、極度に集約なることを要する我農業に在ては生産に従事する一般勞働者が心身共に高度の發達を爲して大なる能率を有することを要す、今日までの工業方面に於ける生産活動は少數の異常なる能力者と平凡なる多數者との協力に由りて

行はれ、從つて其協力關係は技術的にも社會的にも專制主義の支配する所にして、世人が個人的國家的の資本主義の支配と稱するものは是れなり、只だ此の如き方針の下に於ける工業進歩は最早や行詰り狀態に陥りつゝありて、今日の社會問題の切迫は即ち此行詰りを語るものに外なるざるが如しと雖ども、此點の研究は暫らく舍き、少くとも今後の我國が必要とする高級の集約農業に於ける活動に在ては總ての勞働者が高度の能力を有することを要す、即ち其生産活動に付ては專制主義よりも民衆主義を主要とすること明かなり。

此の如く我農業には最高級の勞働者の存在を必要とするも、事實は之に反して歐米諸國と同様に、有爲の勞働者は農村を去りて都會に向ひ、之が爲め農村を組織する人口は遂に老幼と低能者とを主とするに至るの危險あり、從つて之を自然に放任するときは國民食糧の缺乏と騰貴とは年を追ふて甚しく、之が爲め都市の社會問題も益々解決難に陥らざるを得ず、此弊を防がんとすれば社會公共の力を都會文化の建設に傾倒する代りに之と對立する農村文化をも建設し、有爲の人物をして安んじて農村に留まり農業に活動せしむることを要す、只だ世人が農村文化と稱するもの、性質は甚だ不明にして、通俗的に其重要項目として擧げらるゝものを見れば、傳統的なる祭禮盆踊りの復興又は新式活動寫眞の輸入の如き、生産の餘暇を利用して行く所の消費享樂の方面なるを常とす、然るに人口の稀薄なる農村に於ける消費享樂の

共同施設は如何なる努力を拂ふも到底之をして都會の夫れと同じ程度まで發達せしむるを得ず、故に若し吾人が努力建設する所の文化生活なるものが果して消費享樂を意味し、生産生活は結果を得る爲め已むを得ずして行ふ所の純粹の苦痛にして、眞の人生は餘暇生活の内に存するものとするときは、農村に有爲の勞働者を引留むることも到底不能とならざるを得ず。

都鄙何れの生活を問はず、人間が最も多くの勢力と時間とを費すことを要するは生産活動なるが故に、眞の文化の進歩は民衆の生産活動其物をして單に苦痛なる手段方便たるに止まらしめず、之をして出來得る限り人生に有意義のものたらしめ、之を以て各自の人格發展の最高最高の機會たらしめざるべからず、生産活動を此の如く改善したるが爲め自然に生産の結果の増加進歩を來たすことが理想的狀態たらざるべからず、若し今日の如く生産活動をして民衆に取り殆んど純粹の苦痛たらしむるときは、社會組織を如何に變更するも、生産に従事する者が其結果の分配を得ることを殆んど只一の目的とすることは依然たるべきが故に、激烈なる分配争ひの起ることも到底之を防ぐことを得ざるべし、而して茲には生産活動其自身を人生に有意義ならしむる一般的原理を違ふるの暇なしと雖も、前述の如く集約なる高級の養蠶業を大々的に農村に發達せしめ、技術上には一般の熟練經驗の集積の外に學理の應用に由る創造的活動を盛ならしめ、又産業組合に由る大々的の共同自治の社會活動を盛ならしむ

るときは、頭腦の進歩して性格の社會化せる有爲の勞働者が安んじて農村に留まり、其業務に全力を傾倒するを得べし、而して農業の重要な一部分たる養蠶の方面に於て有爲の人物が此の如き進歩的活動を爲すときは農村全體の空氣が一新せられ、茲に初めて普通の穀作農業の方面にも我國が必要とする所の改良進歩が行はるゝに至るべく、従つて又農村の餘暇生活も其外界の事情に適應して獨特の進歩を爲し、以て内容の豊富なる農村文化の建設を完成するに至るべし。